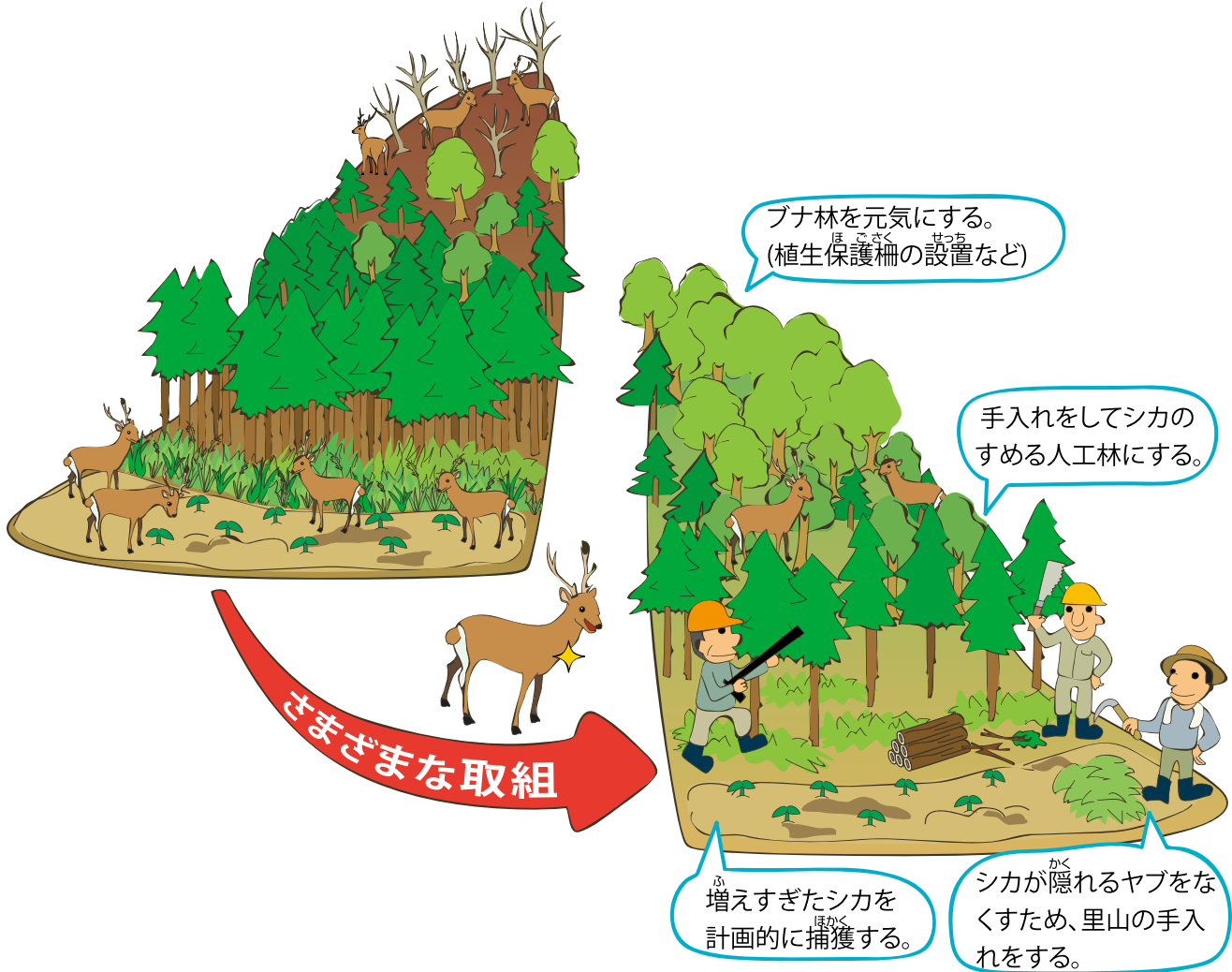


■シカともにくらすために■

げんざい たんざわ かぎ
 現在、丹沢山地の限られた場所に、多くのシカが集まってすんでいるため、さまざまな問題を引き起こしています。そこで、シカもすすめる森林を整えるなどの取組を進め、シカが限られた場所に集まってすまないようにしていかなければなりません。



！ 丹沢山地に適したシカの数を保つ必要があります ！

おくやま
 奥山では、シカが増えて密度が高くなったため、管理捕獲によって密度を下げます。人が育てる森林では、森林の整備とあわせてシカの数調整しながらシカもすすめる森林づくりを進めていきます。里山では、農地にシカが入れないように柵をつくったり、ワナをしかけて捕獲します。このように丹沢山地の環境に適したシカの生息地の管理とシカの数管理を行っていく必要があります。

シカの数や生息地の環境については、調査を続けていきます。この調査結果により、シカの保護管理を行っていきます。

ほかく しゅりょう くじょ
 2001～2005年(平成13～17年)の5年間の管理捕獲、狩猟、有害駆除をあわせたシカ捕獲数の平均は767頭になります。

※第2次神奈川県ニホンジカ保護管理計画より